

保育のヒント～「科学する心」を育てる～

土で表現／認定こども園 若草幼稚園

土と関わり豊かな体験をする子どもたちの姿は、多くの園で日常的に観ることができます。

本ホームページでも、砂・土に関する事例は、すでに30件以上ご紹介しております。年々紹介する事例が多くなる素材の一つです。今回は、3・4歳児の土を使った様々な表現をご紹介します。



土で作った／3・4歳児

❖ 事例：泥団子／泥の感触を楽しむ（4歳児）

5歳児や保育者が泥団子を作るのを見てきた4歳児が、自分で赤土に水を入れようとする。この水加減が難しく、水を入れすぎて何度も「あーあ…」としょんぼりする事態が起こった。色水ようになり、赤土の固まりが掴めず「あんまりお団子にならんね」という泥具合が分かってくると、何度も土を足しながら、少しずつ、少しずつ水を加えることを覚えていく。

赤土とさら粉に十分関わっていく中で、しわ1つない泥団子やペットボトルの蓋にこもりと乗ったツルツルのカップケーキやビー玉ほどの小さな泥団子など、それぞれのイメージから、さまざまな泥団子が生まれていった。



❖ 事例：ごちそう作り／素材の特徴を活かして楽しむ（3歳児）

子どもたちの手から様々な食べ物が作られていく。大好きな食べ物を作っていく子、なんとなく出来た形から連想して作っていく子など、周りの友達と刺激し合い、感触を楽しんでいた泥遊びにイメージが加わり、意味をもつ形が生まれていった。

泥とさら粉で様々なごちそうが生まれたのを受けて、イメージがさらに広がっていくように、子どもたちが身近な森で楽しんで集めたドングリや松ぼっくり、赤い木の実等を取り入れる。

「泥と木の実でこんなに素敵な物が出来るんだ！」「もっとおいしそうに作ろう！」という子どもたちの意欲から、木の実のご馳走は『載せる、刺す』から『並べる、飾る』に変わり、「ここにはドングリ、真ん中は赤い実で、枝は口ウソクにしよう！」という風にこだわって配置したり工夫をして飾る姿に発展していった。



❖ 事例：絵を描く／泥絵の具や自然物で描画表現を楽しむ（4歳児）

自然の中の「土」や園庭のさら粉と触れ合う中で子どもたちは「土」の色の違いや感触に敏感になっていった。小さな袋を

持ち、池のそば、竹林、森など身近ないろいろな場所へ「土の色探し」に出かけた。行く先々で、子どもたちはわずかな土の色の違いにも気付き、「ここ、さっきの土と違う!」と、土を集める。

子どもたちは集めた土を描画用の梅皿に少しずつ出し、「うわー!きれい!」「お花みたい!」見入っている。そして土の色だけでなく、指先でつまみでは、“フワフワ”“ザラザラ”“カチカチ”“ネチョネチョ”などの感触を確かめてにやりっ!という表情を浮かべる。

これらの土で作った“土絵の具”や様々な木の实などを使い、子どもたちは夢中になって絵を描いた。



✦ 考察

子どもたちの心を捉える砂や土。特に「さら粉」は、きめの細かい土の感触のよさと美しさが子どもの心を動かした。そのさら粉から、水との出会いによって泥が現れる。その泥も美しい。泥は固まり、乾き、また砂に戻る。自分たちの操作如何によって、様々に形状を変える土は、子どもたちの心を深く掴み、手の動かし方、力加減、水の加減、道具の扱いなどにおいて多くの試行錯誤を生んだ。

無断転載を禁ず。引用する場合は右記を必ず明記願います。「(C)公益財団法人 ソニー教育財団 ソニー幼児教育支援プログラム 幼児教育保育実践サイト <http://www.sony-ef.or.jp/sef/preschool/>」